

(科目名) 地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案			(群)	拡大科目群
			(系)	地域交流・貢献科目
			(開講期)	通年
(所属部局)	(職名)	(氏名)	(授業形態)	講義 (グループディスカッション等あり)
人間・環境学研究科	助教	安藤 哲郎	(対象回生)	1-3 回生
			(対象学生)	全学学生
(授業の概要・目的)				
<p>現代の京都における最重要産業のひとつは観光業であり、年間 5000 万人前後の観光客が京都を訪れている。現状、各観光地の努力によって訪問が続いているが、観光地をつながりを持たずバラバラに回っては印象に強く残らず、再び訪れる意欲を喚起できず、将来を通じて観光業が発展できるかどうかと危惧する。</p> <p>加えて、京都を中心に培ってきた日本文化を世界に示す意味でも、各観光地を有機的につなげ、ルートそのものに意義のあるプランを設定することで、京都の旅を魅力あるものにし、観光客に加え、プランを創造する学生自身も京都を深く理解できることを目指したいと考えた。まず京都の歴史地理に関して理解を深めてもらったうえで、京都の新しい旅のプランを創造・提案することを通じて、現代の京都を深く知り、未来の京都の創造に資することを目的とする。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>まず、京都の町の形成過程や構造、あるいは空間認識について歴史地理的に理解する。その際、様々な地図・絵図・史料に加えて、京都を舞台として作られた古典を用い、複眼的な理解へつなげる。その後、その理解を活かしながら、学生が新しい京都の旅のプランを創造し、それをもとに議論を行う。その際、将来性を意識して、特に京都に住まう小・中・高校生にプランを提案することも視野にいれ、教育委員会などとも連携が可能な内容としたい。</p> <p>ただし、京都への旅行客が比較的少なくなる夏・冬の時期を含むので、その時期に回るプランを考えていくことを念頭におきたい。</p>				
(成績評価の方法・基準)				
京都の歴史地理に関するレポート (50%) + 旅のプラン創造 (50%)				
(履修要件)				
京都の町に興味・関心があること				
(教科書)				
適宜プリントを配布する				
(参考書)				
足利健亮編『京都歴史アトラス』中央公論社、1994				